

第1学年 社会科学習指導案

学校名 川内市立川内南中学校
教諭 山田 剛

1 単元名 「武家政治の始まり」

2 単元のねらい

本単元は、東アジアとの関わりを持ちつつも、荘園の発展や院政から武士が台頭し、平氏政権が成立するとともに、鎌倉幕府の武家政治が始まり、武士の支配が全国に及んで武家社会が発達するものの、元寇によって武家政治に揺らぎが生じたところである。

生徒は、新しいものに強い関心を持っており、特にコンピュータなどは日頃接する機会が少ないだけに、コンピュータを使った学習に対しては関心が高い。

まだコンピュータ操作が不慣れなためにデジタルコンテンツはインターネット等を用いた調べ学習ではなく、提示用の資料として活用し、小学校の歴史学習との関連性を図りつつ、幕府の成立と武家政治の展開という大きな流れを理解させたい。

3 デジタルコンテンツ活用の意図（指導上の留意点）

生徒の理解を深めるために資料集の補充としてデジタルコンテンツを用いる。

コンテンツ1・・・薩摩が分担した元寇防塁跡の写真で、薩摩が鎌倉時代に御家人の一員として、協力していたことに気付かせ、元寇を身近なこととして捉えるために用いる。

コンテンツ2・・・合戦の様子で有名な蒙古襲来絵詞がその後読み進めていくと竹崎季長が恩賞をもらうために、鎌倉に向いている様子が描かれており、元寇後の御家人の不満を理解させるために用いる。また絵詞のなかで、いろいろな場面が出ていているので、必要に応じて生徒に提示することができる。

コンテンツのアドレス

コンテンツ1 防塁跡

コンテンツ2 蒙古襲来絵詞

<http://www.lib.kyushu-u.ac.jp/gallery/moukoshurai/>

4 単元の指導計画（全4時間）

時	題	学習活動	指導上の留意点	評価の方法
1	院政と武士団	<ul style="list-style-type: none"> ・ 武士とはどのようなものか考える ・ 武士が力を強める背景（院への土地の寄進とその警護）から平氏の勢力拡大を理解する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 武士という言葉から思いつく人物像を発表させる ・ 院政が武士の勢力を拡大していったことに気付かせる 	<p><技能・表現> 武士とはどのような人が自分の考えを持つことができる</p> <p><知識・理解> 武士がどのように成長していったか説明することができる</p>
2	鎌倉幕府の成立	<ul style="list-style-type: none"> ・ 守護・地頭の設置を鹿児島と絡めながら理解する ・ 封建制度と鎌倉幕府のしくみを理解する ・ 承久の乱の原因を考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・ この頃、島津氏が薩摩の守護に任命されたことにふれる ・ 承久の乱の後、東国から鹿児島への地頭に任命される武士がいたことにふれる 	<p><興味・関心> 島津家のルーツがこの時代にあったことに関心を持つ</p> <p><思考・判断> 鎌倉時代が今までの時代とどのように違っているか考えることができる</p>
3	武士の生活	<ul style="list-style-type: none"> ・ デジタルコンテンツから鎌倉時代の武士の生活を調べる 	<p>コンテンツ</p> <p>http://www.tamagawa.ac.jp/sisetu/kvouke/n/kamakura/index.html</p> <p>を用いて、鎌倉時代の武士の生活に興味を抱かせる</p>	<p><興味・関心> 鎌倉時代の武士の生活を意欲的に調べようとする</p>
4 (本時)	元の襲来	<ul style="list-style-type: none"> ・ 元軍が攻めてきた理由を考える ・ 元寇の影響による鎌倉幕府のおとろえを理解する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ モンゴル帝国の拡大と東方見聞録の記述から元軍が攻めてきた理由を考えさせる ・ 封建制度について確認させてから、御家人の不満を考えさせる 	<p><思考・判断> 元がなぜ襲来したのか考えることができる</p> <p><知識・理解> 元の襲来は、日本にどのような影響を与えたのかを理解できる</p>

5 本時（4 / 4）

（1）目標

元がなぜ襲来したのか考えることができる（思考・判断）

元の襲来が日本にもたらした影響を理解できる（知識・理解）

（2）指導にあたって

本時は、中単元「武家政治の政治」の終末にあたり、元寇という小学校時代に学習した内容をより一層深く理解し、鎌倉幕府への影響を考える部分である。次の中単元である「ゆるる武家政治」の導入部分でもあるので、元寇のもたらした影響をしっかりと理解させたい。

(3) 実 際

		学 習 活 動	学習 形態	指導上の留意点	資 料
導入	10分	1 前時の復習として、小テストを行う	一 斉	封建制度のしくみを中心に復習	前時のノート
		2 年表から当時あった大きな出来事を確認し、学習課題を設定する 元の襲来は、日本にどのような影響を与えたのだろうか。		小学校で学習した元寇について想起させる	資料集
展開	7分	3 教科書や資料集からモンゴル・元の拡大の様子を、白地図に記入する	一 斉	モンゴル帝国の発展の中でチンギスハーン、ブルライの名前を挙げる	教科書・資料集
	8分	4 元が日本に攻めてくる理由を考え、班でまとめて発表する	班 活 動	・モンゴル帝国が広い地域を武力を使って拡大していったことに気付かせる ・資料「東方見聞録」を活用して、「黄金の国ジパング」が日本を指すことに気付かせる	・3で作成した地図 ・「東方見聞録」
	5分	5 2回目の元寇までに日本が何を準備したか考える		・防塁・水城をつくり、2度目の元軍に備えたことを理解させる ・ コンテンツ1 より鹿児島島の御家人も防塁の建設を手伝っていることにふれ、元寇を身近なこととして捉えさせる	・ コンテンツ1
	7分	6 3度目の襲来があるかどうか予想させる		「さらにもう一度来るか・来ないか」どちらかに挙手させる	
		7 ブルライの死・高麗やベトナムでの抵抗により、3度目はなかったことを理解する		御家人の戦いだけでなく、近隣諸国の動きも大きかったことに留意する	
	6分	8 元寇後、御家人が幕府へ望むものは何か考える		コンテンツ2 の蒙古襲来絵詞は、合戦の様子で有名であるが、その絵詞を読み進めると竹崎季長が恩賞を要求している場面があり、奉公に対する褒賞（御恩）を求めていることを理解させる	・ コンテンツ2 http://www.lib.kyushu-u.ac.jp/gallery/moukoshurai/
		9 御家人の不満から幕府のおとろえについて理解する		徳政令の説明をして、土地の分割相続などの細かい事象については簡単にふれる程度とする	
終末	7分	1 本時、中単元の復習・次回の予告		一 斉	鎌倉時代の重要事項を再確認する。 幕府のおとろえから新しい動きが出てくることを予想させる

(4) 評 価

元がなぜ襲来したのか考えることができたか。(思考・判断)

元の襲来が日本にもたらした影響を理解できたか。(知識・理解)